

## 資料1 用語解説

あ行

### 【医療保険者】

医療保険を運営する団体のことで、加入している被保険者から保険料を徴収し被保険者証（保険証）を交付し、医療に関する給付を行う。市町村が運営する国民健康保険や民間企業が運営する健康保険組合などがある。

か行

### 【回帰式】

2つの数値の関係を分析する統計的な手法である回帰分析により算出された式で、2つの数値の間の関係を示している。年度と被保険者数の関係でいえば、年々被保険者数が増加しているのか、減少しているのか、それはどの程度であるのかなどを示している。

### 【結果説明会】

集団健診の受診者を対象に行っている説明会で、健診結果を説明するとともに、健康についての助言や情報提供などを行っている。

### 【高血圧症】

血圧が正常範囲を超えて高く維持されている状態。高血圧自体の自覚症状はないことが多いが、虚血性心疾患、脳卒中、腎不全などの発症リスクとなる点で臨床的な意義は大きい。

### 【行動変容】

習慣化された行動パターンを、適度な運動やバランスのとれた食事をするなどの望ましい行動パターンに変えること。

### 【コーホート変化率法】

人口の推計に用いられる手法の一つで、同じ年齢層の集団（コーホート）について、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法である。

推計するものが比較的近い将来の人口であり、変化率の算出基礎となる近い過去に特殊な人口変動がなく、また推計対象となる近い将来にも特殊な人口変

動が予想されない場合は、比較的簡便なこの方法を用いることができる。

さ行

#### 【事業主健診】

労働安全衛生法に基づいて事業所が従業員に対して行わなければならない健診で、雇い入れるときと、その後1年以内ごとに1回、定期的を実施しなければならないと定められている。

#### 【脂質異常症（高脂血症）】

血液中に含まれる脂質（中性脂肪やコレステロールなど）が多すぎたり、少なすぎる状態を指す。

具体的には、LDLコレステロールが多いタイプ（高LDLコレステロール血症）、HDLコレステロールが低いタイプ（低HDLコレステロール血症）、トリグリセライド（中性脂肪）が多いタイプ（高トリグリセライド血症）の3タイプがあり、動脈硬化や心筋梗塞、脳梗塞の原因となる。

#### 【集団健診】

地区ごとに実施されている健診で、あらかじめ決められた日時と場所に健診車などが出向いて行われる健診。

#### 【循環器系の疾患】

疾病の分類で、心疾患や脳血管疾患、高血圧症など、血管や心臓に関する疾患が分類される。

#### 【新生物】

疾病の分類で、主としてがんが分類される。その他に良性腫瘍等も含まれる。

#### 【生活習慣病】

糖尿病、高血圧症、脂質異常症、がんなどの病気のように、食事や運動、ストレスなどの普段の生活習慣が原因となる病気をいう。

た行

#### 【特定健康診査（特定健診）】

第1章2（2）（3ページ）を参照

#### 【特定保健指導】

第1章2（3）（4ページ）を参照

### 【糖尿病】

糖代謝の異常によって起こるとされ、血糖値（血液中のブドウ糖濃度）が病的に高まることによって、様々な特徴的な合併症をきたす危険性のある病気である。

な行

### 【内臓脂肪型肥満】

腹腔内臓器の周囲に脂肪がたまることによっておこる肥満。特定健診における基準としては、腹囲が男性 85 cm 以上、女性 90 cm 以上とされている。

### 【内分泌、栄養及び代謝疾患】

疾病の分類で、糖尿病などの代謝異常に係る疾患やホルモンの分泌に係る疾患等が分類される。

は行

### 【腹囲】

へそ周りの長さであり、メタボリックシンドロームを判定する際の基準となる。

ま行

### 【メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）】

第 1 章 2（1）（3 ページ）を参照

### 【メタボリックシンドローム該当者】

メタボリックシンドロームに該当している人。

### 【メタボリックシンドローム予備群】

メタボリックシンドロームに該当していないが、腹囲基準と追加リスクの 1 つに該当している人。

その他

### 【BMI】

体重と身長の関係から算出した、人の肥満度を表す指数である。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

日本肥満学会によると、BMI が 22 の場合が標準値であり、統計的に見て一番病気にかかりにくい体型で、標準から離れるほど有病率は高くなる。BMI が 25 以上の場合を肥満、BMI が 18 以下である場合をやせとする。

### 【R2 乗値】

統計分析における値の 1 つで、回帰分析を行った際にその回帰式により 2 つの数値の関係をどれくらい説明できるかを表す。標本値から求めた回帰方程式のあてはまりの良さの尺度として利用される。0～1 の値をとり、1 が最もあてはまりが良く、0 が最も悪い。一般的に、0.5 以上であればあてはまりが良いとされることが多い。